

令和4年

交通安全アドバイス集

小学校低学年用
(歩行中の交通安全編)



福岡県警察

1 はじめに

平素から、交通安全思想の普及・定着に向けた交通安全教育を推進していただき、誠にありがとうございます。

児童に対する交通安全教育は、知識や技術の習得により、通学路における安全を確保するだけでなく、将来にわたり、安全に通行しようとする意識や交通ルールを守ろうとする意識を養うためにも必要不可欠なものです。

福岡県内の令和3年に発生した子供の交通事故は、小学1年生が最多となっていることから、悲惨な事故を防止するためにも、小学1年生の交通安全教育が重要となってきます。

そこで、先生や保護者の皆さんが日常的、継続的に交通安全教育を行うための参考資料として本書を作成しましたので、児童を悲惨な交通事故から守るために活用していただくようお願いします。

2 児童(低学年)の特性

(1) 身体的特性

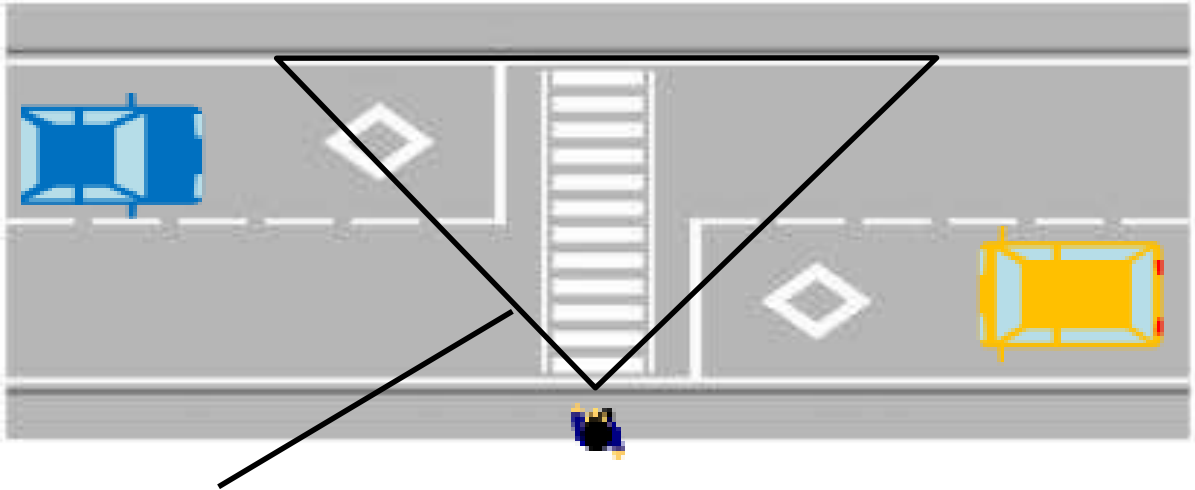
- 視野が狭い。
- 身長が低く、目線が低い。
- 運動神経がまだ未熟。
- 体の割に頭が大きく、バランスが取りにくい。

(2) 思考等の特性

- 自己中心的な部分が残る。
- 注意力は短時間しかもたず、しかも十分でない。
- 衝動的で活動的、落ち着きがない。
- 論理的思考や冷静な判断力が未発達。
- 一度に一つのことしか把握できない。
- 珍しいもの、心惹かれるものに左右されがち。

○ 児童の視野

大人の視野は約150度ですが、児童の視野は約90度と狭いため、大人には見えているものも児童には見えていない場合があります。



接近する車両が見える範囲に入っていないため、車両を認識できない。

○ 児童の身長と車の高さ

小学校1年生の平均身長は、約120cmですが、普通車の高さは約150cmなので、車の陰にすっぽり隠れてしまいます。



3 交通安全教育のポイント

(1) 自己学習と模範行動

児童に対して適切な交通安全教育を行うため、まずは大人が交通ルールやマナーを理解し、常に児童の手本となる交通行動を実践しましょう。

(2) 繰り返しの交通安全教育

一度教えるだけでは、交通ルールやマナーを習慣づけることはできません。

児童にとって最も身近な存在である先生や保護者の皆さんが、日常生活の中で繰り返し教えることが大切です。

4 「飛び出し」の危険性

(1) 飛び出しをイメージさせる

児童は、飛び出しをよく理解していない場合や、たまたま車が通らず、これを危険な行為と認識していない場合があります。

どのような場面・心理状態で飛び出しをしやすいか、自分の行動を振り返らせ、実際の道路で教えるなどして理解させましょう。

例：友達と追いかけてっこをしているとき

道路に飛び出したボールを追いかけたとき

次に、イラストなどを示しながら、「どうして危ないのか」を問いかけ、交通事故の危険について、児童自身に考えさせます。

(2) 「止まる」という動作を身につけさせる

① 道路のどこで「止まる」のか、実際の場所で具体的に指導しましょう。

② 走ってきて、所定の位置で止まり、次は歩くといった遊びの要素を取り入れて、実際に「止まる」ことを体得させることも1つの方法です。

(3) 車の直前・直後の横断の危険性を理解させる

「飛び出し」に関連するものとして、停車している車の直前直後の横断があります。

どちらも、後続車や対向車などと接触する危険があり、しかも、後続車や対向車のドライバーには児童の姿が見えていない可能性があります。

また、物陰からの横断も危険ですので、併せて教えましょう。



5 安全な横断方法の習慣化

(1) 安全な横断の手順を正しく理解させ、習慣づける

児童の安全確認や判断能力はまだ未熟です。

そこで、「止まって」「見て」「合図を出して」「待って」渡る、基本行動を繰り返し練習し、これを習慣化させることを重点に教えてください。

教えるときは、近くに横断歩道や信号機がある場合と、ない場合に分けて指導し、必ず実際に体を動かしてやらせてみましょう。

① 横断する前に必ず一度「止まる」

横断歩道や信号機がない道路での「飛び出し」事故を防ぐため、横断前に必ず一度「止まる」ことをしっかりと理解させ、習慣化させるようお願いします。

近くに信号機のある横断歩道がある場合には、その場所まで行き、そこで止まって、信号機に従って、青でも良く見て渡ることも教えてください。

② 一定の手順で「見る」

止まった後は、しっかりと首を動かして、道路の奥まで「車が

来ていないか」を、右・左・右という一定の規則性を持たせて「見る」ことを教えてください。

車両は左側通行が原則ですので、横断直後の事故を防ぐためです。

③ 手を上げるなどして「合図を出す」

車のドライバーが、児童が今から道路を横断することが分かるよう、「手を上げる」等の合図を出す、ドライバーに顔を向ける等して横断する意思を明確に伝えることを教えましょう。

また、児童は体が小さいことから、ドライバーが気づきやすいように、できるだけ大きく手を上げるように指導しましょう。

④ 安全に横断できるまで「待つ」

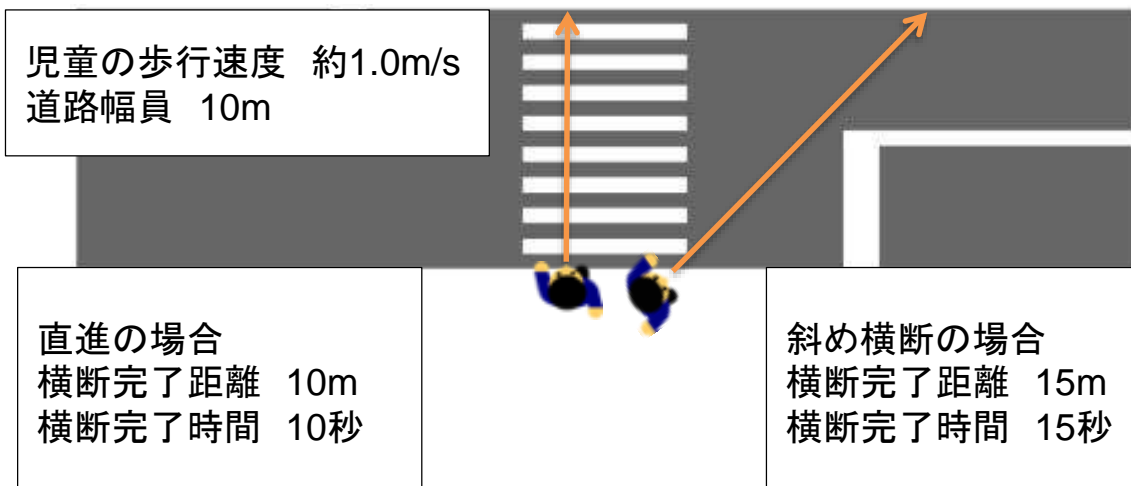
車が近づいてくる場合には、車が通り過ぎるのを「待つ」又は車が停車するのを「待つ」ことが大切です。

車が通り過ぎても、左右をもう一度「見て」近づいてくる車がないときに道路を渡ることを教えてください。

⑤ 一直線に「渡る」

道路を横断する時は、斜めに横断するのではなく、最短距離をまっすぐ一直線に渡ることが大切です。

この時も手を上げ、周りの車に横断者であることをアピールしつつ、別の車が近づいていないか常に左右を確認しながら渡るように教えてください。



(2) 交差点の安全な通行方法

① 止まる位置

信号を待つときは、交差点の角からできるだけ離れた場所やガードパイプ等の歩行者を守る物の後方など、安全な場所で待つよう教えましょう。

内輪差による巻き込み事故や事故で制御を失った車等から守るためです。

② 信号の意味

信号を守り、安全に交差点を通行するには信号の意味を正しく理解しておく必要があります。

歩行者用信号機の青色点滅や、三灯式信号機の黄色は、「注意して渡る」「急いで渡る」と間違えて覚えている場合がありますので注意してください。

○ 青色 …… 「渡ってもいいですよ」

○ 青色(点滅)…… 「渡り始めてはだめですよ」

既に渡り始めている場合は、近い方に急いで渡るか、引き返します。(三灯式の黄色も同じ意味合いです)

○ 赤色 …… 「渡ってはいけません」

③ 横断中の危険

交差点の交通事故で気をつけなければならないのが、横断歩道を横断中の事故です。

例え歩行者用の信号が青信号でも、右折や左折の車が進行してくる場合があります。

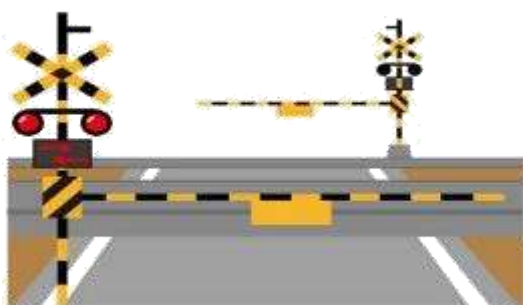
このような交通事故を避けるためには、横断中もしっかりと近づいてくる車がいなか左右を見ながら渡ることが大切です。

(3) 踏切の渡り方

踏切を渡るときは、遮断機が上がったら右端を通行します。

警報機が鳴りだしたら危険なので
通行してはいけません。

遮断機が下りている場合は、電車
が通り過ぎて上がるまで待ちます。



(4) 雨天での注意点

- ・ 傘は前がよく見えるように差すか、透明の傘でできるだけ視界を確保します。
- ・ 雨の日は、ドライバーの視界も悪くなり、歩行者が見えないこともありますので、ドライバーにも分かりやすい明るいカッパを着用するか、明るい色の傘を差すことをお勧めします。
- ・ 雨の日でも、車が止まってくれたことをしっかり確認して道路を横断します。

6 車の特性を理解させる

(1) 車のスピードについて

車のスピードは、人間が走るスピードより格段に速いことを理解させましょう。

(2) 車の停止距離について

人間でも、全力で走っているときは急に止まれないことを体験させ、人間よりも速い車は急ブレーキをかけてもすぐに止まれないことを理解させましょう。

(3) 車が出す合図について

ウインカー、後退灯(バックランプ)の場所や作動状況を教え、合図の意味と車の動きを理解させましょう。



(4) 車の死角について



車には、運転席からミラーを使っても見えない部分(死角)があることを、実際に運転席に乗せて体験させ、車のそばで遊んだり死角に入ることの危険性を理解させましょう。

(5) 車の内輪差について

車が右折や左折をする際に、曲がる方向の後輪が前輪よりも内側を通るため、曲がる車に近寄ると事故に巻き込まれる危険性があることを理解させましょう。



(6) 車の夜間のライトの性能について



夜間、車が明るいライトを照らしますが車のドライバーからは歩いている人が見えていない場合があることも理解させましょう。

7 最後に

先生や保護者の皆さんには、児童の交通事故を防止するために、日常的に交通安全教育を実施していただくほか、特に保護者の皆さんには通学路を児童と一緒に何度も確認して、どこが危険なのか、どうしたらいいのかを、繰り返し教えていただくようお願いします。

交通事故は、誰にでも起こりうるものです。

児童が悲惨な交通事故に遭わないために、警察、学校、家庭が協働して対策を推進していきましょう。